

調布自分史の会 講演会

調布飛行場の 昭和史

戦中・戦後を中心に

たづくり
まつり
2023

2023年 6月11日 日 10:00-12:00

会場:調布市文化会館たづくり3階 303・304学習室 定員:30名(当日先着順)
講師:金井安子さん(調布飛行場の掩体壕を保存する会)



米軍が撮影した調布飛行場(1945年8月下旬)
原板は米国国立公文書館蔵

■戦中

1941年4月に調布飛行場が完成。8月からは陸軍が専用の飛行場として使用することになりました。12月にアジア太平洋戦争が始まると帝都防空の基地として、東部軍の拠点的な飛行場となりました。

■戦後

1945年9月3日、米軍が多摩地域の飛行場に進駐し、9月17日には調布飛行場と隣接する倉敷飛行機株式会社調布工場を接收。その後、飛行場の西側一帯に巨大な水耕農場が造られ、占領軍に野菜を供給しました。農場閉鎖後、1964年の東京オリンピック開催に当たり、選手村の用地に決まった代々木のワシントンハイツが農場跡地に移転し、「関東村」と呼ばれました。

調布自分史の会とは

調布市北部公民館で活動する調布自分史の会は、昭和・平成・令和の時代を経てきたシニア世代のメンバーが集まって、自作の発表と互いにアドバイスを受けて語り合うひとときを持っています。2023年3月には、会誌『野川の仲間たち』第27集を発刊しました。

1975(昭和50)年に歴史学者の色川大吉氏が、「庶民こそ自分の歴史を語るべきである」(『ある昭和史—自分史の試み』)と述べたことから、普通の人の歴史として「自分史」という言葉が使われるようになりました。

主催:調布市公民館・たづくり利用者会議 運営:たづくりまつり実行委員会

講演会問い合わせ:070-4510-5258 久我